



町の白山神社に奉納される、一人立三匹獅子舞の勇壮かつ
独特な舞です。

宇都宮城下の大火によって焼失した宇都宮大明神(二荒山
神社)再建をきっかけに、天保9（1838）年に、関白獅子舞
の技法が中里西組へ伝わったものです。

[昭和51年9月22日 市指定]

立伏のツバキ C・1



推定樹齢450余年、樹高8m、目通り周囲2m、枝張り東西
8m、南北10.4m。立伏の屋敷跡にある、濃赤色一重咲きのヤ
ブツバキで、南側の水田に面している部分のみが開けていて、
枝は南側に向かい張り出すものとまっすぐ上に延びるもの
があります。

[昭和47年1月21日 県指定]

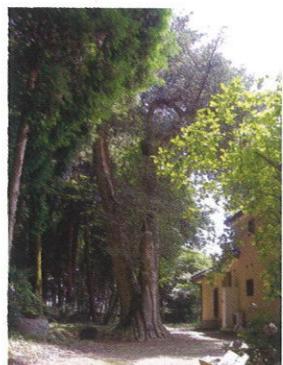
シダレコウヤマキ D・2



推定樹齢200余年、樹高19m、目通り周囲1.85m、枝張り東西18m、
南北8m。枝垂性のコウヤマキです。コウヤマキは暖地性の常緑樹で、
本県には自生はしていません。このコウヤマキは主幹中央部付近から2
つに枝分かれしている大木で、枝のほとんどが垂れているため、全国的に
見ても非常に珍しいものです。

[昭和52年7月29日 県指定]

下ヶ橋の三ツ股力ヤ ■ C・3



推定樹齢500余年、樹高18.5m、目通り周囲5.1m、枝張り東西16m、
南北16m。母屋北側にあるカヤで、地上1.5mの所で3本に大きく枝分か
れしています。樹高はありませんが全体の姿が見事であり、樹勢も盛
んでいます。なお、享保8（1723）年に起きた「五十里洪水」の時に、近在の
十数人がこの木に登り難を逃れたと伝えられています。

[昭和46年5月14日 県指定]



白沢甲部彫刻屋台

天保4（1833）年に製作された、外輪式彩色彫刻屋台です。
鬼板と懸魚には唐獅子、正面の柱には龍の彫刻がまきつけられ柱
隠の様に彫れており、眼にはハメ込みのガラス玉が用いられています。
全部で12枚になる外障子・内障子には、十二支の彫刻が施され、
この屋台の特徴となっています。

[平成2年12月6日 市指定]



東組彫刻屋台

弘化2（1845）年に製作された、外輪式彩色彫刻屋台です。唐
破風の螺細の彩色や脇障子の鶏・鬼板・懸魚の玉眼金龍など当時
の彫刻と見られ、状態は良く、当時のすばらしい彫刻や彩色彫金
技術の高さを物語っています。

[平成4年7月1日 市指定]



西組彫刻屋台

昭和9（1934）年に製作された内輪式白木彫刻屋台です。高
欄と障子には彩色がされています。彫物の題材は龍をはじめ唐子
牡丹・鯉・亀・鶏・花鳥などです。

[平成4年12月10日 市指定]



天王原彫刻屋台

大正7（1918）年に製作された外輪式白木彫刻屋台です。鬼
板・懸魚には文政年間の作と思われる龍・牡丹・雉などの繊細な
彫物が見られます。

[平成4年12月10日 市指定]



東下ヶ橋天棚

慶応2（1862）年に製作された、重厚な白木彫刻天棚で市内
中で最も大きいものです。

1・2階とも後部面が前面と同じ唐破風・鬼板と懸魚の彫物で飾ら
れている珍しいものです。鬼板は波に龍をはじめ唐獅子牡丹など
多種多様です。特に正面障子周りの彫物は、牡丹・桜・孔雀などを彫り
上げ、幅3.mにも及ぶものです。

[平成3年3月30日 市指定]